

本提案における1人1台端末の活用（まとめ）

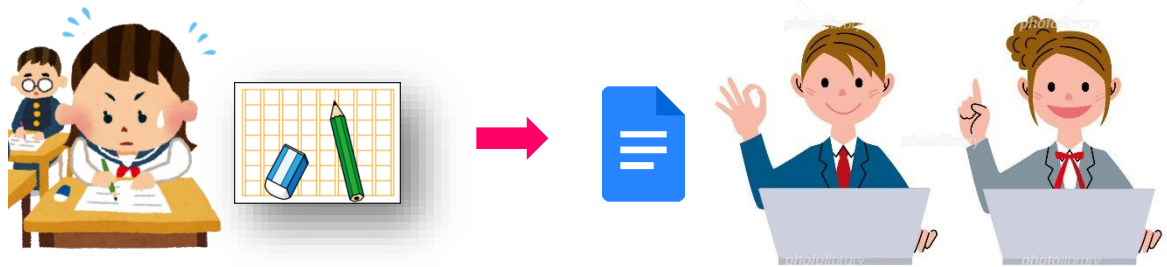
I. 学習形態 一斉学習 個別学習 協働学習

II. 利用するICT タブレットPC (Windows Chromebook iPad)
実物投影機 大型提示措置（大型モニター、プロジェクター）
その他（ ）

III. 利用するサービス ・Google ドライブ ・Google ドキュメント

IV. 場面によるメリット（1人1台端末活用のよさ）

(1) 【書く作業の効率化・時間短縮】生徒が作文活動を行う際、Google ドキュメント を用いることで、書く作業や文字の加除修正等を、画面上で容易に繰り返すことができる。そのため、生徒は書いたり消したりする作業時間が短縮されるとともに、内容を吟味する時間が保障され、表現力等を高めることができる。



(2) 【意見交流の場の保障と効率化】クラウドサービス（Google ドライブ）の共有機能を用いることで、複数人で同時に同じファイルを開覧しコメントを書くことが保障されるため、生徒全員の意見交流が可能となる。作文の完成後の鑑賞や教師による創作状況の見取り、さらに、下書き→コメント→清書の過程を把握しながらの評価ができる。

1. 下書き

★創作の視点

- ①今（見えているもの）と昔（心の中に見えているもの）の対比
- ②自然のものと人工のものとの対比
- ③五感を使って感じたことを表現
- ④漢語の多用

★地の文

僕は今、○○丘という山を登っている。険しい山道に苦しみながらも、やっと頂上にとどり着いた。頂上は木々の生い茂る険しい山道と違い、日の光が当たる広い平地となっていた。ひんやりとした風が吹いている。しかし、ここにはほとんど何も無い。あるものと言えば、記念碑のようなものが一つあるだけだ。

この場所には、昔、岳の山城という城があった。大村純忠が客将渋江公嗣に築城させ、後藤貞明の侵襲を防いだのだという。その後、この城を巡る戦いが続いたことが言い伝えられている。耳を澄ますと、戦いの音が聞こえてくるようだ。さっと、何人もの兵士の命が失われたことだろう。

今、この場所には城の面影も人の姿もない。いつか、この城の歴史や戦いも、自然の力に飲み込まれてゆくのだろうか。僕の心にも、いつか冷たい風が吹き込んでいた。

★俳句

秋風や記念碑語る戦いの音

★お互いの紀行文を創作の視点を基に読み、コメントを書き込みましょう。

★みんなからのコメントを参考にして、あなたの紀行文を清書しましょう。

僕は今、○○丘という山を登っている。険しい山道に苦しみながらも、やっと頂上にとどり着いた。頂上は木々の生い茂る険しい山道と違い、日の光が当たる広い平地となっていた。ひんやりとした風が吹いている。しかし、ここにはほとんど何も無い。あるものと言えば、記念碑のようなものが一つあるだけだ。

この場所には、昔、岳の山城という城があった。大村純忠が客将渋江公嗣に築城させ、後藤貞明の侵襲を防いだのだという。その後、この城を巡る戦いが続いたこと

2. コメント

○○○○ 0:06 2月18日
今書いてるの、一緒に読んでる感じがわかるので、一緒に読んでほしいです。

○○○○ 0:07 2月18日
芭蕉が表現してる感じがします。

○○○○ 0:10 2月18日
「風の声に響いて」と入れると、今と昔の音を対比した表現になるのでは？

○○○○ 0:27 2月18日
「ひんやりとした風が吹いている」という表現が、心までも冷たい感じが、体だけでなく、心までも冷たさせるという終わり方が、さらに寂しさを増している感じがして、効果的だと思います。

「～」という言葉の方がいいと思うよ。

うん。そう思う。

それより昨日の○○だけど、～。

どう思う？

...

3. 清書

